



東光寺だより

令和七年十二月一日 発行

静冈市清水区谷田

曹洞宗 谷田山東光寺

坐禪三昧の修行

永平寺では僧侶たちが、十二月一日から八日まで臘八摂心（ろうはつせしん）という坐禪修行を行います。十二月八日はお釈迦さまが菩提樹の下でお悟りを開いた成道の日であり、中国の陰暦ではこの日を臘八（臘月八日）といいます。早朝から就寝まで食事と排泄以外摂心期間中は、坐禪三昧の日々を過ごします。

大聖釈迦如来成道御和讃 一番

師走の八日 朝まだき

菩提の葉風 爽やかに

心の闇を
払われし

自覺(めざめ)の主は釈迦世尊



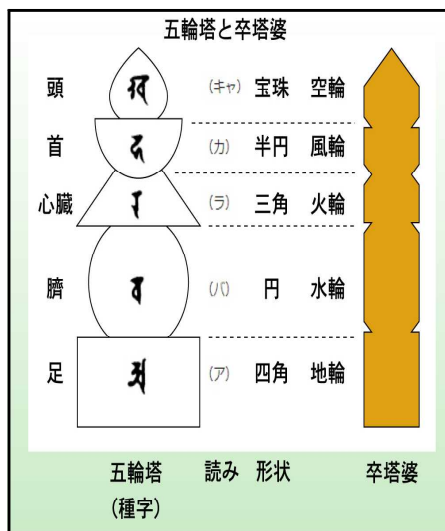
永平寺に安住した際に
 臘八の修行為行いに
 ました。心
 僧堂の季節になると暗
 つい僧堂の壁を半眼で見
 出さ続けました。情景が思
 かけられたひたすら坐り続
 がうなるか行かぬかの
 がうなるか行かぬかの
 境にはそれまでも八日朝
 に坐せんとした。

塔婆供養という善行

塔婆と言へば一般的にはお墓に建てる卒塔婆を意味します。元々は古代インドの土まんじゅうに盛り上げたお墓のことでした。語源は梵語のストウーバです。五重塔、多宝塔など様式は様々ですが、仏教では塔を重要視します。

日本では、聖徳太子によつて四天王寺境内に建てられた五重塔が最初だと言われています。平安時代になると大寺院の五重塔から転じて、墓地に亡き人の供養として塔を建てるようになり、鎌倉時代になると板塔婆が用いられるようになりました。

現在一般的に建てられる板塔婆は、年回忌の法事や春秋のお彼岸会などの供養や施食会などの祈祷の為のものです。



極めたる功徳の大きな供養とされてい
 仏典にも「塔をたてて供養すべし」とありま
 う板塔婆の上には五輪の形をしてい
 のはオリンピックの輪の形をしてい
 う宇宙観の事で、大世界を構成しては
 水の火風の四大・五行が、空である五
 を表してゐる。仏性・法性といふ五大
 満に具しいです。大・小・法・性とい
 地この五輪の形で五輪象徴的表
 墓成仏の姿とされてゐます。特に密教
 は成仏の姿とされてゐます。特に密教
 は成仏の姿とされてゐます。特に密教

したがって、五輪の塔を造立することは一仏を造立することと同じであることから、五輪塔を建立することが起こり、後に板塔婆に五輪の形を刻むようになったのです。

板塔婆は、五輪の最下部を長くして経文や法名を記せるようにしました。

お墓に塔婆を立てる供養は、御先祖様、亡き方に対する報恩感謝の心を形であらわすことです。

その功德は大きく、施主本人とその一族に回向されると言われています。

雑巾ご寄付のお願い

令和八年四月の大本山永平寺焼香師団体参拝の募集は九月末日で締め切らせて頂きました。とおかげさまで総勢四十二名のお申し込みを頂くことができました。ありきとうございました。毎日の付きましました、永平寺の雲水（修行僧）が毎日の清掃で使用する雑巾（ぞうきん）のご寄付にご協力をお願い申し上げます。をお願ひ申し上げます。ご寄付頂いた雑巾は団体参拝の際に永平寺に納めさせていただきます。

【受付期間】

令和七年十二月一日から

令和八年四月二十六日まで



徒弟秦平の近況

前号でお伝えしたように当山徒弟、至誠秦平は、今年の春に上山し、五月一日に正式な修行僧「雲水」となりました。七月十七日に行われた三回目の転役により祠堂殿（しどうでん）という寮舎に移りました。この寮舎では毎日、参詣者から依頼された追善供養等の法事を行います。この度、永平寺の月刊誌「傘松」にこの寮舎の記事が掲載されましたのでご紹介いたします。



永平寺月刊誌「傘松」令和七年十月号掲載記事（後列左端が当山徒弟）



祠堂殿では、全国から永平寺にて永代供養をして欲しいと願われた信徒の方々のお位牌やご遺骨をあずかつており、修行僧によって毎日、追善供養等の法要が行われます。施主の方々がお年忌やご納骨など、大切な節目に際して永平寺に來山され、法要に参列しているのだと肝に銘じ、誠心誠意、法要に努めて参ります。

お施主様の気持ちに寄り添い、法要を行って参ります。

一座一座丁寧に、法要に臨みます。
（會行 沈那）
（祠堂殿接司 陽俊）

日々を大切に、頂いた配役を努めて参ります。

初心を忘れず、修行に助んで参ります。
（龍尊）

お施主様の為に何が出来るかを常に考え、行じて参ります。
（泰平）

「師を越えてこそ、法を嗣くに得たり」日々精進致します。
（康仁）